

「学校を変えよう！ミニ校長先生からの報告」
 ～精華小をよりよくするため、全校に調べたことを
 分かりやすく伝えよう～（4年生）
 「事実と感想、意見とを区別して全校に
 米作りについて意見を述べよう」（5年生）

授業のポイント

発行
 令和4年2月
 中部教育事務所



授業者
 齊藤愛里教諭（津野町立精華小学校）

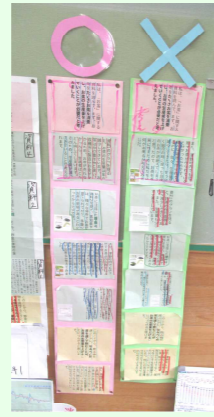
本単元で身につけさせたい資質・能力
 「話すこと・聞くこと」内容や構成の検討 イ
 ◇第4学年 「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事
 例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考える
 こと。
 ◇第5学年 「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、
 事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。

教材
 第4学年 「調べたことをほうこくしよう」
 （東京書籍4年下）
 第5学年 「資料を見て考えたことを話そう」
 （東京書籍5年）

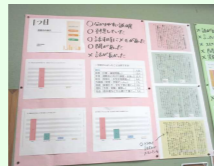
①付けたい力を自覚させるための 教師の手立て

単元の一次1時間目に、齊藤教諭は本単元のゴールを児童に示した。モデルを見せるにあたり、単元ゴールのグッドモデルとバッドモデルを見せ、両方を比較させることにより、児童に課題意識を持たせることを意図したものである。

5年生では、グッドモデルとして「始め」の部分で自分の考えを述べ、「中」では資料を示しながら具体的な数値を伝えたり、強調したりし「終わり」では調べたことから分かったことや自分の考えを述べた。一方バッドモデルとして、話の順序をばらばらにしたり、どの資料について話しているのか曖昧にしたり、自分の考えなのか事実なのかも漠然と話したりした。これにより児童からは「①（バッド）の話は突然始まり、何が言いたいかわりにくかった。それに対して②（グッド）は、こうだからこういうふうにしようと話していきやすいわかった。」という意見が出された。「どのように話したら、聞き手に自分の考えが伝わるのか」という問いが児童に生まれた時間となった。



5年生 モデル



4年生 モデル

②本時で働かせたい見方・考え方の明確化

精華小学校では、単元を通して一単位時間に働かせたい見方・考え方をより明確にするために、校内研修においてもそれぞれの先生方が自分ごととして、見方・考え方を働かせている児童の姿を具体的にイメージし、共有を図ってきた。本時では4年生は、報告の目的を意識しながら、どの順番で話そうか考えている姿、考えたことを比較しながら並び替え、その効果を認識している姿、5年生は目的に沿って「資料にあるどの数値を使って何を伝えたいのか」を明確にし、そのためにはどのような構成が効果的なのかを考えている姿を具体的な子どもの言葉で例示し、本時で付けたい力がぶれないようにした。

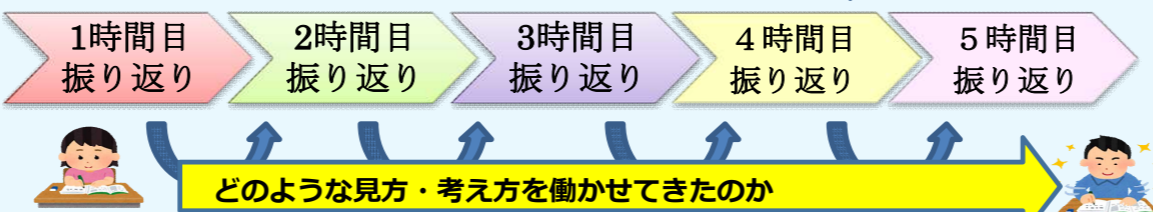
例えば4年生は「目的は、自分たちの生活をよりよくするためだから、このことを先に伝えようかな。」、5年生は「この資料は、お米がどれくらい消費されているかわかる資料だね。消費量が少ないことに着目してもらうためには、これをどこにいれようかな。」などである。このことにより、前時までの学習も生かして4年生は伝えたいことと、アンケート結果を行き来しながら構成を考える姿、5年生は事実とそれにかかわる自分の考えや体験を区別しながら組み合わせ、資料のつながりを意識して構成していく姿を目指した。

子どもの見方・考え方が働いている姿は本時のみで完結するものではなく、前の時間からつながっているものであることを再度確認し合った。

本時の指導より

(4) 展開 ■直接 □間接		4年の学習活動	5年の学習活動	教師の働きかけ
○教師の働きかけ ●リーダーの動き☆評価標準	4年の学習活動 ・児童の反応	5年の学習活動 ・児童の反応	○教師の働きかけ ●リーダーの動き☆評価標準	
●「前時の振り返りをしましょう。昨日は教科書の組み立ててメモから組み立てての方法を学んだね。また、アンケートの結果を数字に目を付けてグラフや表にまとめましたね。」	1 前時の振り返りをする。 ・アンケートの結果を、グラフや表で表すと分かりやすくなったよ。 2 本時の課題を確認する。	1 前時の振り返りをする。 ・複数の資料を関係づけて話すためには、4年生の時に習った、「中心を明確にする」ということが大切だったね。 2 本時の課題を確認する。	●「前時の振り返りをしましょう。昨日は複数の資料を関係づけて話すためには、4年生の時に習った、「中心を明確にする」ということを学習しましたね。」 ●「課題を書きましょう。」 ○単元ゴールを確認し、本時の学習の目的を確認する。	
伝えたいことがより伝わるには、どのような組み立てにしたら良いだろう。	3 課題解決の予想が立つかを確認する。 （グループ・パッチェック） ・今日は話の組み立てを考えるとね。 4 グループで課題を解決する。 ・話の中心はどこにしたら良いだろうか。 ・話す順序はこれでいいかな。 ・理由の次に事例を話したら良いかな。	3 課題解決の予想が立つかを確認する。 （グループ・パッチェック） ・今日は話の構成を考えるとね。 4 グループで課題を解決する。	○「課題を書きましょう。」 ○単元ゴールを確認し、本時の学習の目的を確認する。	
○単元ゴールを確認し、本時の学習の目的を確認する。 ●「課題を書きましょう。」	○「課題を書きましょう。」	○「課題を書きましょう。」	○「課題を書きましょう。」	
●課題解決の見通しを確認する。 ○第一次で示した教師の組み立てメモの見本を示す。	○「グループで組み立てを考えよう。」	○「グループで組み立てを考えよう。」	○「グループで組み立てを考えよう。」	
○話し合いの中心を明確にして組み立てを考えるよう助言する。 ○児童の出し合いだけにしないように考えを繋げるようにしていく。	5 全体で学び合う。 ・他のグループの構成を見比べて話す順序が違うね。 ・話の中心をはっきりさせると相手に伝えたいことがはっきりするね。 6 自分の言葉でまとめる。	5 全体で学び合う。 ・最も伝えたいことを決めて考えを述べているところがいいね。 ・事実と感想が区別してあるね。 6 自分の言葉でまとめる。	○第一次で示した教師の組み立てメモの見本を示す。 ●本時の課題解決の見通しを確認する。 ●「グループで構成を考えよう。」	
○話し合いの中心を明確にして組み立てを考えるよう助言する。 ○児童の出し合いだけにしないように考えを繋げるようにしていく。	7 振り返りを書く。 ・今日は課題に向かって、自分で選んだ資料をどのように構成すると伝えたいことを伝えることができるかを考えました。話の内容が明確になるように、例を先に出しておいて、思いや考えを後に言う伝えたいことがより分かりやすくなると思いました。	7 振り返りを書く。 ・今日は課題に向かって、自分で選んだ資料をどのように構成すると伝えたいことを伝えることができるかを考えました。話の内容が明確になるように、例を先に出しておいて、思いや考えを後に言う伝えたいことがより分かりやすくなると思いました。	○話し合いの中心を明確にして組み立てを考えるよう助言する。 ○児童の出し合いだけにしないように考えを繋げるようにしていく。	
伝えたいことがより伝わるには、話の中心をはっきりさせたり、話す順序を考えたりして、組み立てると良い。	8 リーダーより	8 リーダーより	○話し合いの中心を明確にして組み立てを考えるよう助言する。 ○児童の出し合いだけにしないように考えを繋げるようにしていく。	
●「振り返りを書きましょう。」	●「振り返りを書きましょう。」	●「振り返りを書きましょう。」	●「振り返りを書きましょう。」	

④学習改善・授業改善へ生かす「振り返り」へ



毎時間振り返りを書くことは、単元で育成を目指す資質・能力が明確になり、学習の仕方、学び方が適切かどうかを評価し、改善することにもつながる。まずは、教師自身が振り返りの具体例を書いてみて、そこへ向かうためにはどんな手立てが必要か考えることも大切である。

2セット目を終えて
 授業者 齊藤教諭の振り返り



★単元を通して、相手意識・目的意識の大切さを学んだ。
 ★複式の授業の際、教師の介入のタイミングについて、どのタイミングで入れればよいか、入るべきところで児童の思考を促す（ゆさぶる）問い返しが効果的にできるよ、今後も教材研究を深めたい。
 ★授業を進めていく中で、ゴールイメージが明確なほど、国語科に苦手意識を持っている児童の頑張りや意欲を実感することができた。
 ★「単元で働かせたい見方・考え方」を考え指導案に明記することで、どこを大事にすべきなのか自覚することができた。今後も継続したい。

☆講座に参加した先生の声

・子どもに、授業の目的意識を持たせることが大切だと改めて分かりました。この1時間で何を習得できたらいいのかということ子ども自身が理解していないと複式授業を進めていくのは難しいなと感じました。授業者の先生、ありがとうございました。
 ・タブレットと紙ベースを合わせた授業づくりが光りました。言語活動を中心とした単元構成をさらに研究していきたいと思いました。

③効果的な ICT の活用へ向けて

4年生、5年生ともに本時では、どのような組み立てで話すと、聞き手により分かりやすく伝わるか、事例や理由を記入したロイロノートのカードを並び替えながら構成を考えた。自分たちの伝えたいことを「始め」「中」「終わり」のどこに持ってくるより伝わりやすいか、より効果的な構成は他にないのか問い直しながら学習を進めていく姿が見られた。ロイロノートの特徴の一つでもある「カードに情報（構成）を書き出していく」という方法により、それぞれのカードに書き出していくと、並べ替え、差し替え、加除がしやすいという利点が十分に発揮された学習場面であった。

